

# 中国語教育文法の設計と 「やさしい中国語」

西 香織

今年度は科研費により進めている研究が2件（個人研究、共同研究）あり、ここではそのうち共同研究の研究テーマの概要を紹介する。

## 1. 大学第二外国語(中国語)教育を取り巻く環境

日本の大学における中国語教育の現状（特に課題）については、日本中国語学会中国語ソフトウェアカデミズム検討委員会（2002）、郭（2005、2008）、古川（2011）、西（2012）などに詳しい。ここでは以下の4点を中心に概観する。

### (a) 教員の資質・養成

大学の中国語教育はその大部分を非専任教員（非常勤講師）が担っており、非中国語母語話者（日本人）が多いこと、中国語（言語学、教育学）を専門分野としない教員の割合が高いことが特徴である。中国語教育に従事するために特に資格を必要とせず研修を受ける機会も少ない。

### (b) 教学目标・指導要領

全国統一の教学目标や文法項目など指導要領も定まっていないため、ほとんどが担当教員の自由裁量により授業が行われている。授業は依然として文法訳読法による教授が主流であり、コミュニケーションと謳っているものの多くは実際にはオーディオリンガルメソッドによる教授で、発音練習や決まったフレーズを練習して覚えさせるのみであり、真の意味でコミュニケーション活動を取り入れている授業はごく少数である。

### (c) 教科書

教科書もほとんどが文法シラバスによるもので、入門・初級レベルの教科書は毎年、多くの出版社から100冊以上出版されているが、中級・上級の教科書は非常に少ない。中国語分野で大きなシェアを占める教科書は見られず、特に第二外国語課程では、大学で統一した教科書を用いず、担当教員によって異なる教科書を採用している場合も少なくない。

### (d) カリキュラム

多くの大学はセメスター制を取っており、1学期あたり約15週（1コマ90～100分）の授業が行われている。第二外国語の中で中国語を履修する学生はどの大学でも多数を占める傾向にある。以前は、第二外国語の授業は必修科目で、週2コマ（うち1コマは文法・読解中心、もう1コマは会話、あるいはコミュニケーション中心）、2年間のカリキュラムが主流であったが、近年、2年間の履修期間が1年間に、週2コマの履修時間が週1コマに、必修科目だったものが選択科目になるなど、多くの大学で縮小化の傾向がみられる。

## 2. 「はじめに文法ありき」からの解放と中国語教育文法

昨今の学習時間の減少等による教育条件の多様化や学習者・教授者の多様化という教育環境の時代的变化に対応できないため、特に縮小化が目立つ第二外国語課程では、「初級の文法項目が多すぎる」、「文法の説明方法が難しすぎる」、「学習者・教授者の多様性に対応できない」といった問題も大きい。そこで、我々は従来の文法に代わるものとして、教育用途に特化した「中国語教育文法 (pedagogical grammar)」を設計し初級の学習負担を軽減する方途を探ることにした。

中国語教育文法は、中国語非母語話者が目標形式をできるだけ容易かつ早期に産出する手段としての文法情報を整理したもので、従来の文法が、中国語母語話者の文法知識についての規則や規則性が文法研究者の視点で分析されたものを「学ぶ」立場をとるのに対し、中国語教育文法は、中国語学習者が学習対象となる文法項目を実際に「使う」（目標形式を個別具体的な文脈や状況に位置づける）という発想の転換がある。「文法項目の軽量化による初級レベルでの学習負担軽減」と「専門知識をもたない者でも直感的に理解可能な平易な文法説明」とが実装された中国語教育文法を設計するのである。これにより、「はじめに文法事項ありき」から解放され、学習負担の軽減を図る。

## 3. 「中国語教育文法」は何を目指すか——「やさしい中国語」

日本語では、阪神淡路大震災を機に「やさしい日本語」が考案され、その後、多文化共生社会におけるニーズから、「共通言語としてのやさしい日本語」としても発展し、多くの自治体で「やさしい日本語」の取り組みが進められている。NHKでは「やさしい日本語」関連の番組が増え、NEWS WEB EASYというウェブサイトも立ち上げられており、NHK WORLD-JAPANでは、日本語学習のための「やさしい日本語」のウェブサイトが用意されていて、動画や音声で「やさしい日本語」の学習ができるようになっている。

一方、中国語でも、「やさしい中国語」の取り組みが始まりつつある。中国では2020年初めに新型コロナウイルスの急激な感染拡大に伴い、中国に居住する外国人向けに緊急の情報を伝達する必要が生じたことから、Plain Englishや「やさしい日本語」その他を土台にした「簡明汉语 (Plain Chinese)」の開発が進められている (汲・李2020)。また、日本でも、2020年にNHKラジオ中国語講座応用編 (講師：西香織) で、初めて多文化共生社会を念頭に、「やさしい中国語」の概念を前面に押し出した番組が作られている。

日本の大学の第二外国語課程における中国語教育課程が縮小化の一途を辿っているという現実の中で、「やさしい中国語」にも資する中国語教育文法の構築は必須であり、急務である。

### 【参考文献】

古川裕「日本“中国語”教学概況」『全球语境下的汉语教学』学林出版社、2011、107-117。  
汲传波、李宇明「《疫情防控“简明汉语”》的研制及其若干思考」『世界汉语教学』3、2020、311-

322。

郭春貴「日本の大学汉语教育問題」『世界汉语教学』4、2005、91-97。

郭春貴「日本の大学二外汉语課程の教学模式探討」『中国語教育』6、2008、19-33。

日本中国語学会中国語ソフトアカデミズム検討委員会『日本の中国語教育—その現状と課題・2002—』好文出版、2002。

西香織「日本高校汉语教学离国际化、现代化还有多远？」『全球语境下海外高校汉语教学』学林出版社、2012、217-238。

西香織『NHKラジオ中国語ステップアップ中国語——共に生きるくらしの会話』10月号・11月号・12月号、NHK出版、2020。

野田尚史「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版、2005、1-20。

鈴木慶夏「中国語教育文法設計の必要性—バックワード・デザインによる中国語学的文法からの解放—」『杉村博文教授退休記念中国語学論文集』白帝社、2017、177-196。

鈴木慶夏、岩田一成、張恒悦、西香織「ユーザー中心の中国語文法設計に向けて」『日本中国語学会第69回全国大会予稿集』2019、39-58。